報告 REPORT

令和６年度地域保健等に関する調査研究助成について

◇地域保健部◇

北海道医師会では､本道の地域保健等の向上・推進に資する調査研究活動への助成事業を実施しております。昨年度は以下６つの調査・研究に対して助成いたしました。

調査・研究内容の詳細については、北海道医師会ホームページに随時掲載いたしますのでご覧ください。

●掲載はこちら　北海道医師会トップページ　→　北海道医報　→　2025年９月１日[第1284号]

■執筆者　石津　桂、小池　明美（札幌市医師会／札幌市学校医協議会）
■テーマ　札幌市の児童生徒の体格指数の変化及び成長曲線利用による健診後調査

「札幌市の学校健診における成長曲線有効利用」の実態及び健診後調査を行い、その有効性について検討を行っている。札幌市では、新型コロナ感染症蔓延により肥満児童生徒数が増加したが、蔓延による生活環境への影響が軽減した後の児童生徒の体格指数の変化についても考察する。

■執筆者　武田　充人、澤田　陽子、布施　茂登、山澤　弘州、和田　励
（札幌市医師会／札幌市学校医協議会／札幌市心電図判読委員会）
■テーマ　令和６年度札幌市における学校心臓健診に関する調査検討

受検率は小中学校ともに約97％と高水準を維持したが、精密検査受診率は依然として80％前後にとどまった。病名の内訳は、例年通り心室性期外収縮およびWPW症候群が多くみられた。精密検査受診者のうち約60％が管理を要し、適切なフォローアップが必要であると考えられる。

■執筆者　高木　摂夫（札幌市医師会／札幌市学校医協議会／札幌市耳鼻咽喉科医会）
■テーマ　耳鼻咽喉科学校検診で診断される感染性疾患の動向調査

小中学校でコロナ禍での感染対策が緩和され、集団行動も多く行われるようになったことから、耳鼻咽喉科学校健診での感染性疾患の検出率に変化がみられるか調査を行った。その結果、鼻・副鼻腔炎、中耳炎等が増加傾向にあったがコロナ禍以前ほどは多くはなかった。

■執筆者　中村　育子、塚原　高広、荻野　大助、江連　崇、澤田　知里、及川　智博、和泉　裕一
（上川北部医師会／名寄市立大学コミュニティケア教育研究センター）
■テーマ　過疎・寒冷積雪地域における健康づくりを目的とする基礎的調査

本研究は369人を対象とし、BMIの平均は23.2±3.2kg/㎡で、低体重群は5.1％、標準群は68.8％、肥満群は26.1％であった。肥満群は疾患の割合が高く、低栄養を予防するとともにサルコペニア肥満を予防することも、高齢者の栄養管理では重要であると考えられた。

■執筆者　吾田富士子、吉木　美恵（北海道保育保健協議会）
■テーマ　保育施設における医療的ケア児の受け入れ体制に関する調査 第２報

医療的ケア児受け入れ保育施設３園（札幌・私立１園、道内・公立２園）へのインタビュー調査を行った結果、受け入れ施設は障害児保育の一環として必要に迫られ、手探りで体制を整え、その過程で得た他機関との連携や保育実績が医療的ケア児保育の土台となっていることが明らかになった。また、看護師配置は必要だが、看護師不在でも巡回制度で実施している園もあった。

■執筆者　野上　和剛、松井　拓弥、石原　舞、津川　毅、土田　晃（北海道小児科医会）
■テーマ　北海道における小児アレルギー疾患の診療と連携の実態追跡調査

北海道の小児アレルギー診療の課題を明らかにするため、2022年度の調査研究の追跡調査を行った。気管支喘息の評価や吸入指導を行う施設が増えた。コントロール不良なアレルギー患者を専門施設へ紹介せず診療している施設も多い。医療の均てん化や地域間の連携、スムーズな成人科への移行が今後の課題である。